

心理学の基礎<1>

第2回 心理学の歴史

担当／浜村 俊傑

今日の授業内容

- 1) アナウンスメント
- 2) 前回の復習とレスポンスシート
- 3) 今日の目的と到達目標
- 4) 心理学成立以前の「ころろ」
- 5) 心理学の成立
- 6) 心理学の展開
- 7) まとめ

アナウンスメント

カードリーダー

❖読み込めなかった方は、紙に氏名を記入して提出してください

レスポンスシート

❖できるだけ濃く書いてください

資料のアップロード

❖日曜の朝にはみなさんがアクセスできるように頑張ります

講義の変更

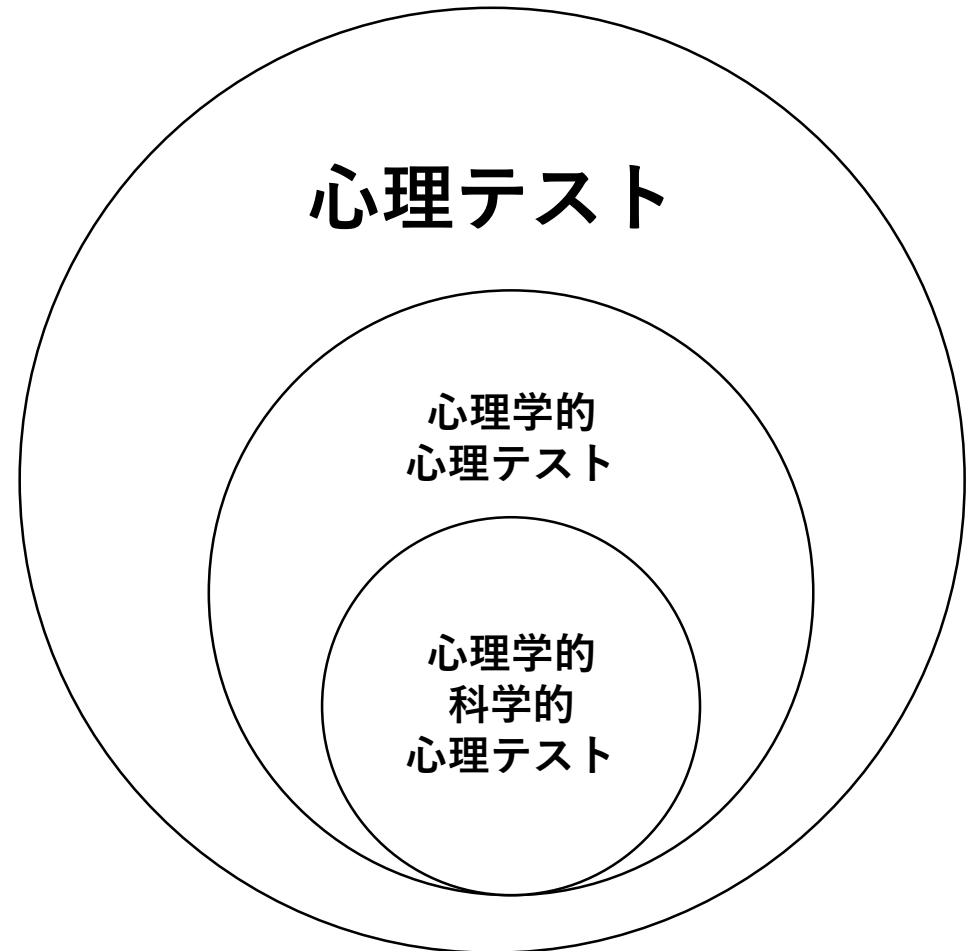
❖第13回は異常心理学を学びます

前回の復習とフィードバック

Q：心理テストはすべて学問的に認められないのか？

A：学問的に妥当な心理テストはたくさん存在する

- 現状は学問的に認められ
 難しい心理テストが多い
- 認められていても完ぺき
 ではない



前回の復習

- ❖現代の心理学では「こころ」の性質や働きを科学的な手法に基づいて理解していく
- ❖人間の心理関連のあらゆる現象に対して、「私は～と思う」を排し、データから推測されることを述べる

今日の目的と到達目標

目的

- ❖心理学の歴史を学び、どのような経緯で現在の心理学に至ったかを知る

到達目標

- ❖心理学の成立までの過程を説明できる
- ❖心理学の流れ（movement）を大まかに説明できる

心理学成立以前の「こころ」

哲学の影響／古代ギリシャ

❖ ヒポクラテス（460BC－370BC）

■からだを構成する体液により気質（性格）が決まる

□血液が多いと**多血質**（陽気な性格）

□粘液が多いと**粘液質**（鈍重な性格）

□黒胆汁が多いと**憂うつ質**（うっとうしい）

□黄胆汁が多いと**胆汁質**（怒りっぽい）

❖ エピクロス（341BC－270BC）

■「快樂主義（喜びの達成や苦痛の回避）」

哲学の影響／古代ギリシャ

❖ プラトン (Plato, 428BC-347BC?)

- ころころ=脳

- 内的考え(inner ideas)を主張

❖ アリストテレス (Aristotle, 384BC-322BC)

- ころころ=心臓

- 内的考えを批判

❖ 両者とも良く生き良く行為することが幸福と考える

哲学の影響／近世の西洋

- ❖ ルネ・デカルト (Descartes, 1596-1650)
 - 「こころ」と「からだ」の相互作用(mind-body interaction)を主張
- ❖ ジョン・ロック (Locke, 1632-1704)
 - 生まれた時のこころ (mind) は白紙であると主張
 - tabula rasa (blank slate, 白紙)
- ❖ 生得説 v s 経験説

生得説と経験説

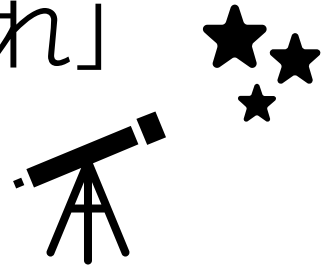
- ❖ ところ（や行動）の性質が生まれつきなのか、あるいは経験を通して獲得されるものなのか
 - 遺伝と環境というテーマで現在でも心理学の重要問題
 - 哲学者の間で議論になっていた

生理学の影響／天文学

❖ 1795年のイギリス天文学者と助手の「ずれ」

■ 助手の星の動きの観測がずれている

■ 助手は優秀だったが、その後解雇される



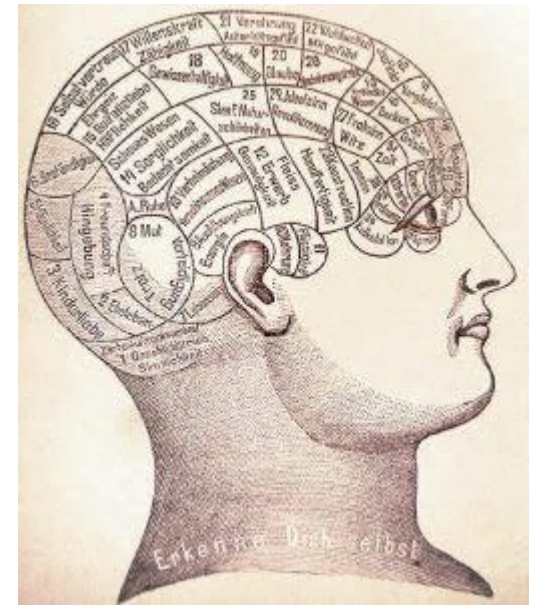
❖ 20年後に別の天文学者がその「ずれ」について言及

■ どんなに優秀な観測者の間にでも観測にずれが生じることがしばしばある

❖ 人間の感覚の実験研究が注目される

生理学の影響／脳科学

- ❖ 19世紀に入り，脳機能の研究が盛んになる
- ❖ ドイツの医者ガル（F. Gall）は，脳を解剖し，脳の様々な部位が情動や知能を司っていると主張
- ❖ 「唯物論」「実証主義」「過程」「実験」で構成される生理学が盛んになる



Bernard Becker Medical Libraryから
<https://becker.wustl.edu/news/franz-joseph-gall-and-the-origins-of-phrenology/>

心理学の成立

4人の科学者

- ❖心理学は古代からの哲学の影響を受けつつ、
生理学の「実験」的取組みから生まれる
- ❖19世紀ドイツでは科学的なアプローチが強
かった
- ❖4人の科学者が特に大きく貢献

4人の科学者

ヘルムホルツ(Helmholz , 1821-1894)

❖ 感覚神経の速度

- 当時は「即時」言われるほど測定できなかった
- 刺激に対して筋肉の反応は27m/sec.と推定
- 個人内差, 個人間差が大きく研究継続を断念

❖ ヤング=ヘルムホルツの三色説

- 赤, 緑, 青 (RGB) が色覚細胞に最も反応する

4人の科学者

ウェーバー(E. Weber, 1795-1878)

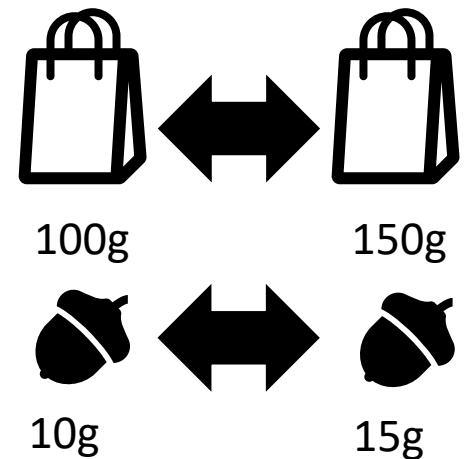
❖ウェーバーの法則

■2種類の刺激の差異はどのように知覚されるのか

(違いが分かるのか)

■刺激の差異は絶対的ではなく相対的

■感覚によって基準が異なる



4人の科学者

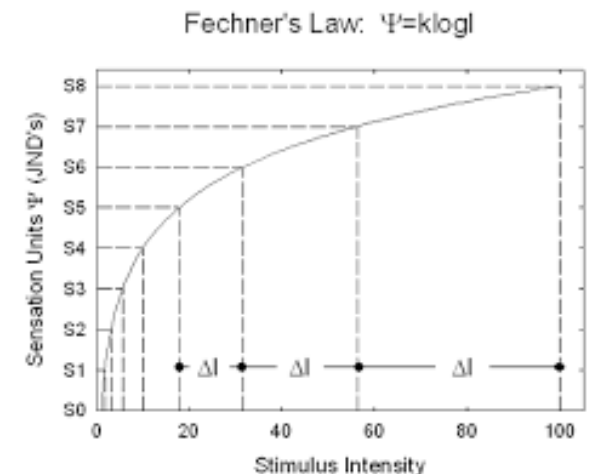
フェヒナー(G. Fechner, 1801~1887)

❖ 精神世界に属する感覚と物理的世界に属する刺激とのあいだの数量的関係を解明する

❖ フェヒナーの法則

■ 感覚そのものが生じるために必要な刺激量

■ 精神物理学として体系化

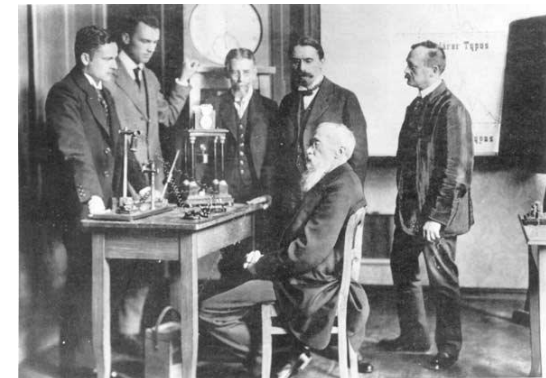


4人の科学者

- ❖ **ヴィルヘルム・ヴント (Wilhelm Wundt)** が1879年にドイツのライプチヒ大学に心理学実験室を創設
- ❖ **ヴント=心理学の設立者**
- ❖ **内観法 (introspection)** で**意識**を構成する心的要素を分析しようとした
- ❖ **内観法**：実験室内で意識的経験を被験者の内観報告によって確認



https://en.wikipedia.org/wiki/Wilhelm_Wundt



https://www.researchgate.net/publication/254769323_Psychology_and_society_An_overview/figures?lo=1

Think, Pair, Share

テーマについて考えて, ペアで共有する

❖一人で考える (Think, 1~3分)

❖ペアで共有する (Pair, Share, 2~5分)

❖手順

- 問いの提示
- 一人で考える
- ペアをつくる
- ペアで話す時間を提示
- 一人目の共有
- 二人目の共有
- 全体共有・質疑応答

(東大FFPのスライドから抜粋)

Think, Pair, Share

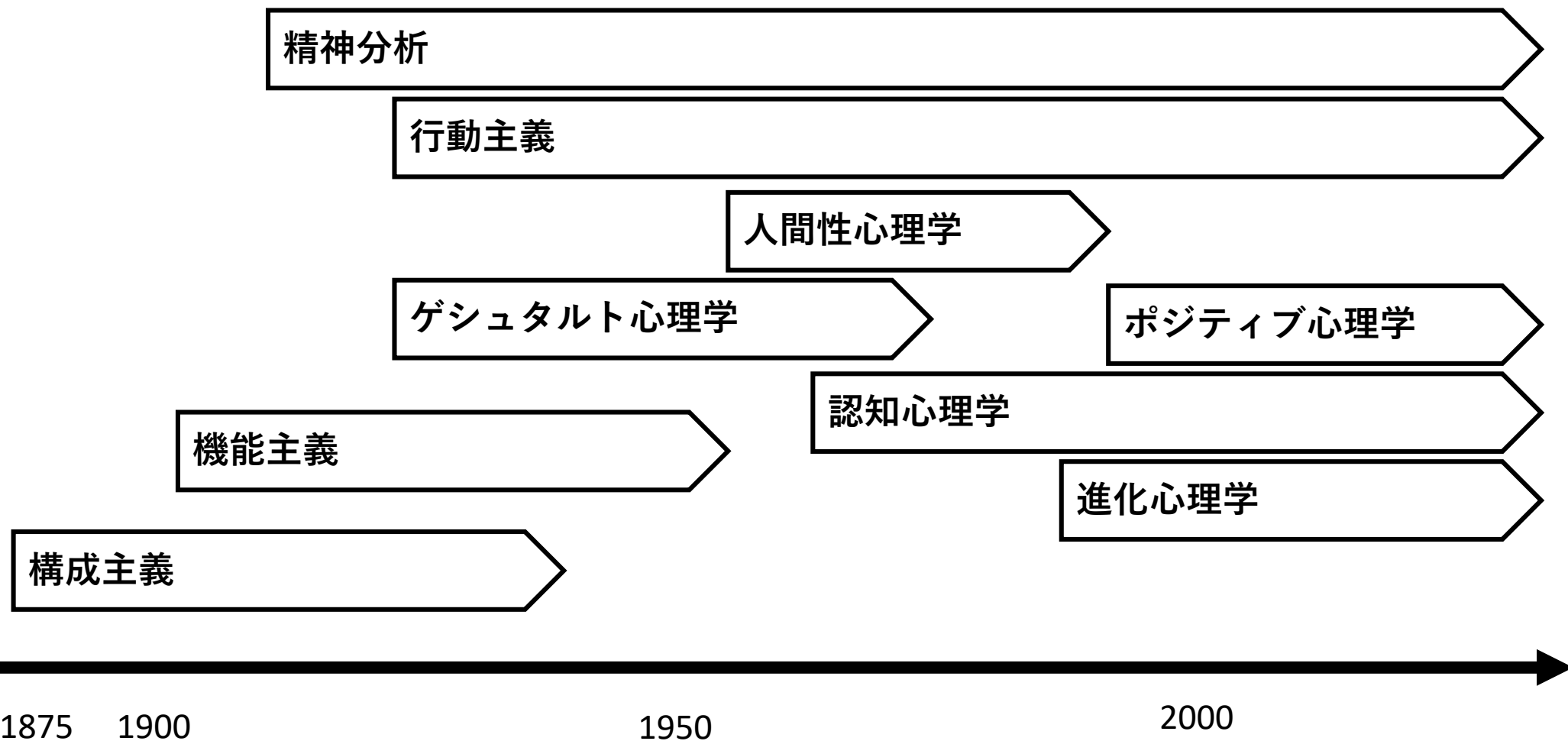
問い／心理学はどのように成立しましたか？

- ①自分で復習，整理してください（think）
- ②ペアを作ってください（pair）
- ③問いの答えをペアの人に話してください（share）
- ④役割を交代して①～③を行ってください

*全体共有は行いません

心理学の展開

これまでの心理学の展開



心理学の展開

❖ ヴントの実験心理学は様々な角度から批判されると同時に、新しい考え方のきっかけとなり、その後の心理学の発展の礎となった

❖ 現代心理学の3つの潮流

主観から客観へ→行動主義（行動心理学）

要素から全体へ→ゲシュタルト心理学

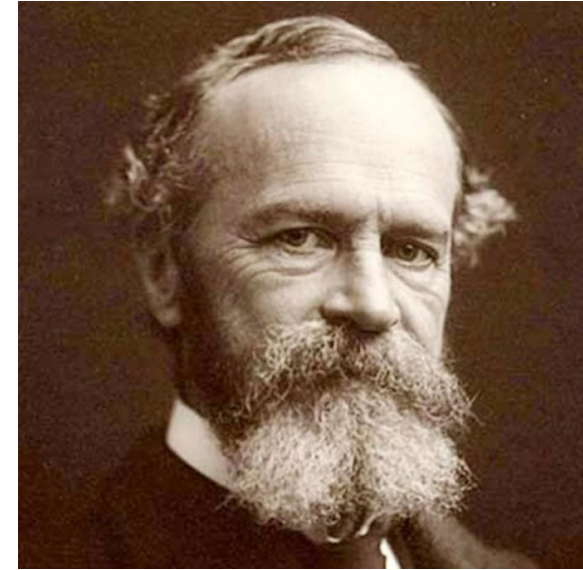
意識から無意識へ→精神分析学

構成主義

- ❖ 意識内容を分析し，要素を見出し，その属性を明らかにしようとした→構成主義
- ❖ ヴントの弟子ティチエナー（Titchener）がアメリカにて**構成主義**を確立
- ❖ 意識＝純粹感覚＋単純感情
- ❖ 構成主義の批判
 - 実験方法が主観的
 - 意識（内的過程）は外部から観察できない

心理学の成立／機能主義

- ❖意識は固定的な存在ではなく動的な流れと考えられる
- ❖米国のウィリアム・ジェームス (William James) が**機能主義**を唱える
- ❖心理学の研究を正常な大人から動物までを対象にした



<https://balancedachievement.com/grow-more/william-james-quotes/>

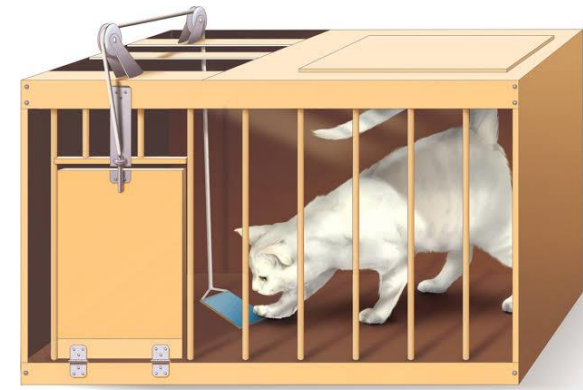
機能主義から行動主義へ

❖ James-Lange説（情動の抹消起源説）

- 「悲しいからなくのではなく、泣くから悲しい」

❖ William Jamesの弟子 Thorndike（ソーンダイク）

- 猫の問題箱（試行錯誤説）



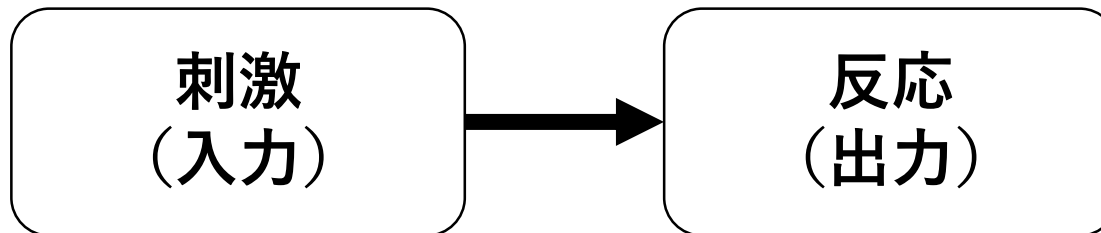
❖ 行動主義，学習心理学へと発展していった

行動主義

- ❖心理学を科学的にするのであれば、客観的に観察できる「行動」を研究対象にするべき
- ❖構成主義の意識への取り組みを批判
- ❖1910年代～1950年代に北米で発展
 - トラウマ体験で電車に乗れなくなった
 - レスポナント条件付け；古典的条件付け
 - 愛犬が「お手」ができるようになった
 - オペラント条件付け

行動主義

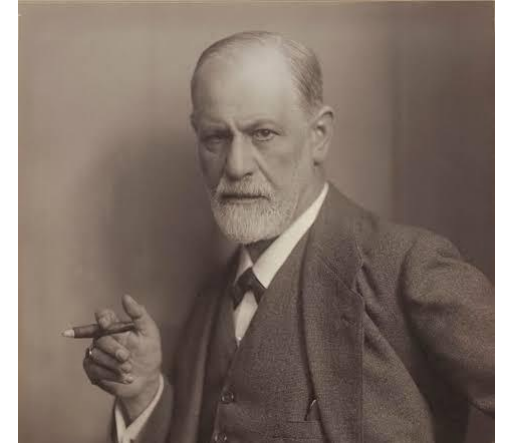
- ❖ すべての学習は**刺激**と**反応**の関係で成り立つ
- ❖ ジョン・ワトソン (J. Watson, 1878-1958)
 - 私に健康な幼児を託せばどんな専門家にでもしてあげよう。能力に関係なく医者, 弁護士, 芸術家, そして泥棒や乞食でさえも可能だ (Watson, 1930)。



ペンシルベニア州州立大学より
<https://sites.psu.edu/siowfa15/2015/10/21/analyzing-little-albert/>

精神分析

- ❖ 人間のこころは意識だけでなく、**無意識**の方が大事
- ❖ オーストラリアの精神科医
フロイト(S. Freud, 1856-1939)
- ❖ 研究対象を(ブントの)意識のみならず、「**無意識**」までに拡大し、精神分析学を提唱
- ❖ **精神分析(psychoanalysis)**の始まり
- ❖ 夢分析や自由連想



Wikipediaより
https://en.wikipedia.org/wiki/Sigmund_Freud

精神分析

❖フロイトには多くの弟子がいたが、何人かは分裂した

❖ユング(C. Jung, 1875-1961)

■自己実現と集合的無意識

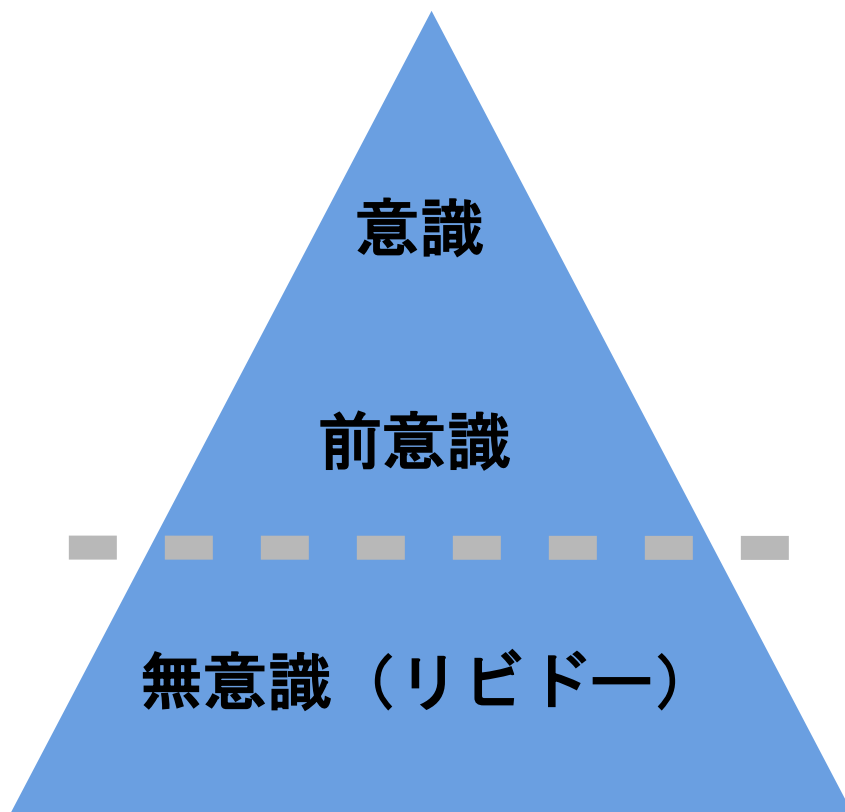
❖アドラー(A. Adler, 1870-1937)

■優越欲と劣等感

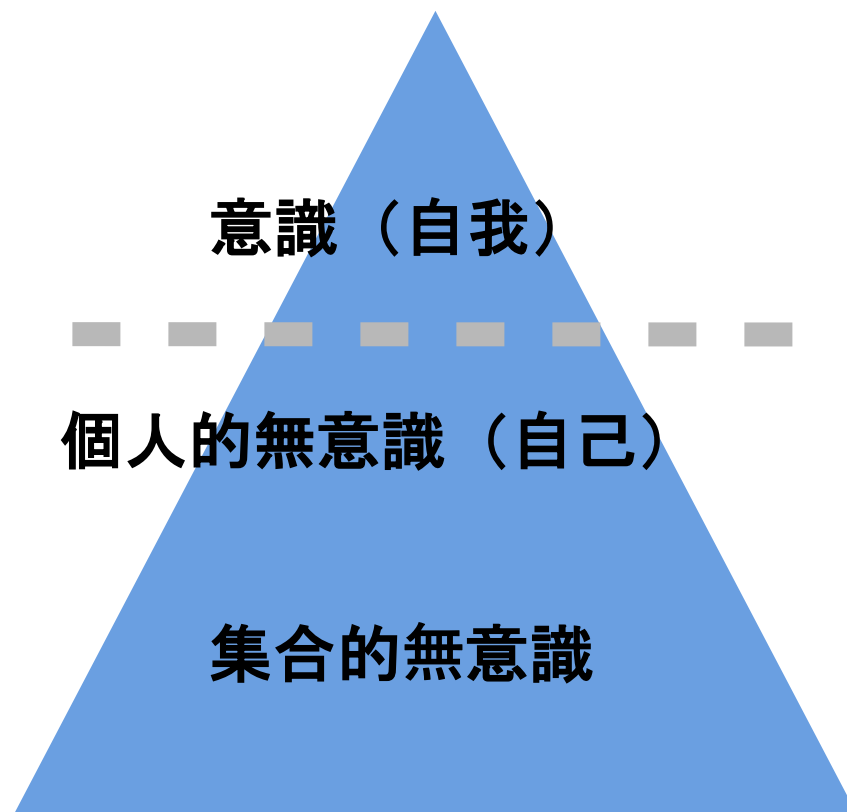
❖精神分析への批判

■無意識は科学的に解明できるのか？

意識と無意識



フロイト



ユング

ゲシュタルト心理学

❖こころは要素ではなく、全体で捉えるべき

❖ゲシュタルト (Gestalt) はドイツ語で「全体」

■ウェルトハイマー(Wertheimer, 1880-1943)

□図のまとまりの原理

■ケーラー(Kohler, 1887-1967)

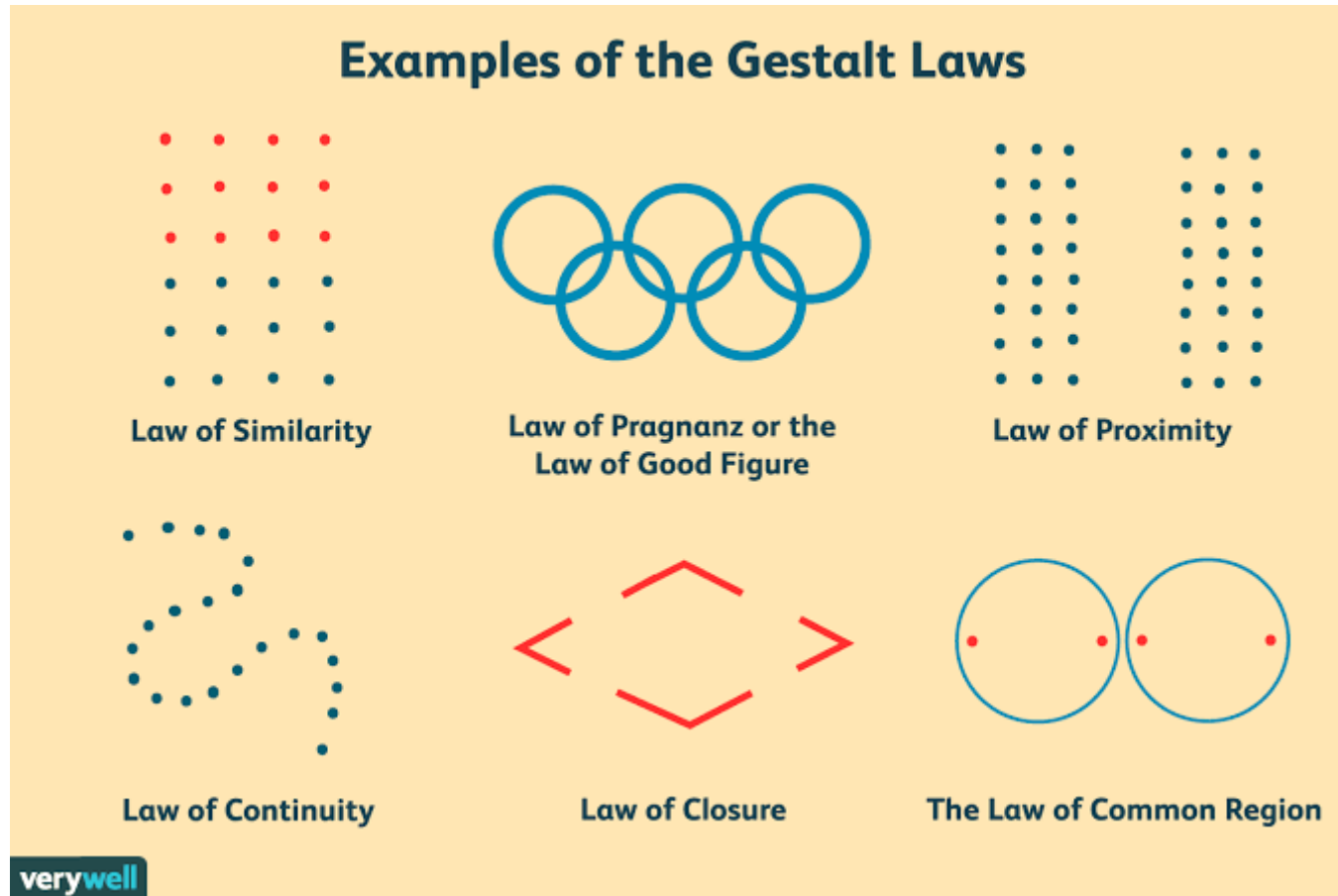
□洞察学習 (試行錯誤)

■レヴィン(Lewin, 1890-1947)

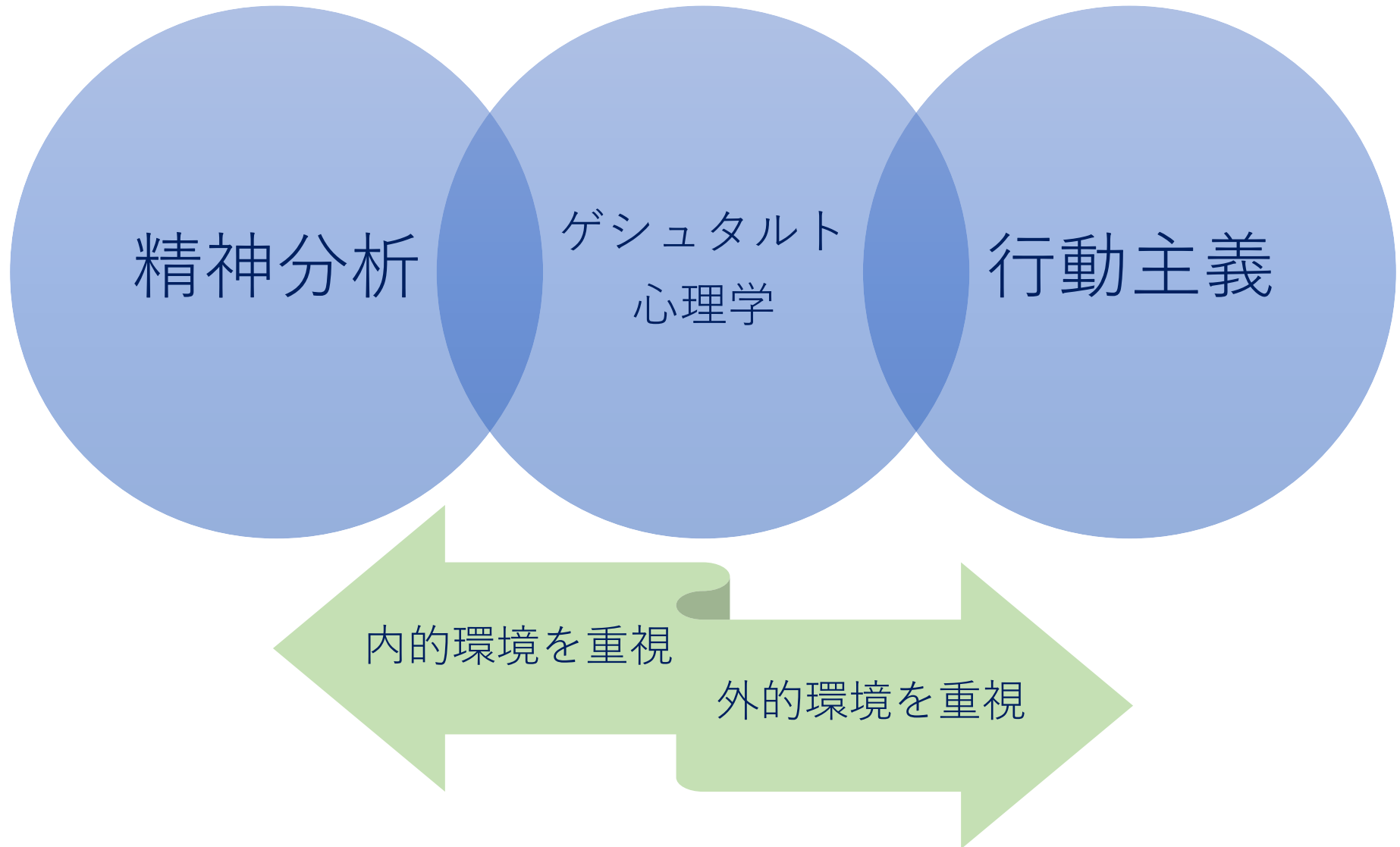
□集団力学 (グループ・ダイナミクス)

❖ヴントの実験心理学による要素への還元を否定

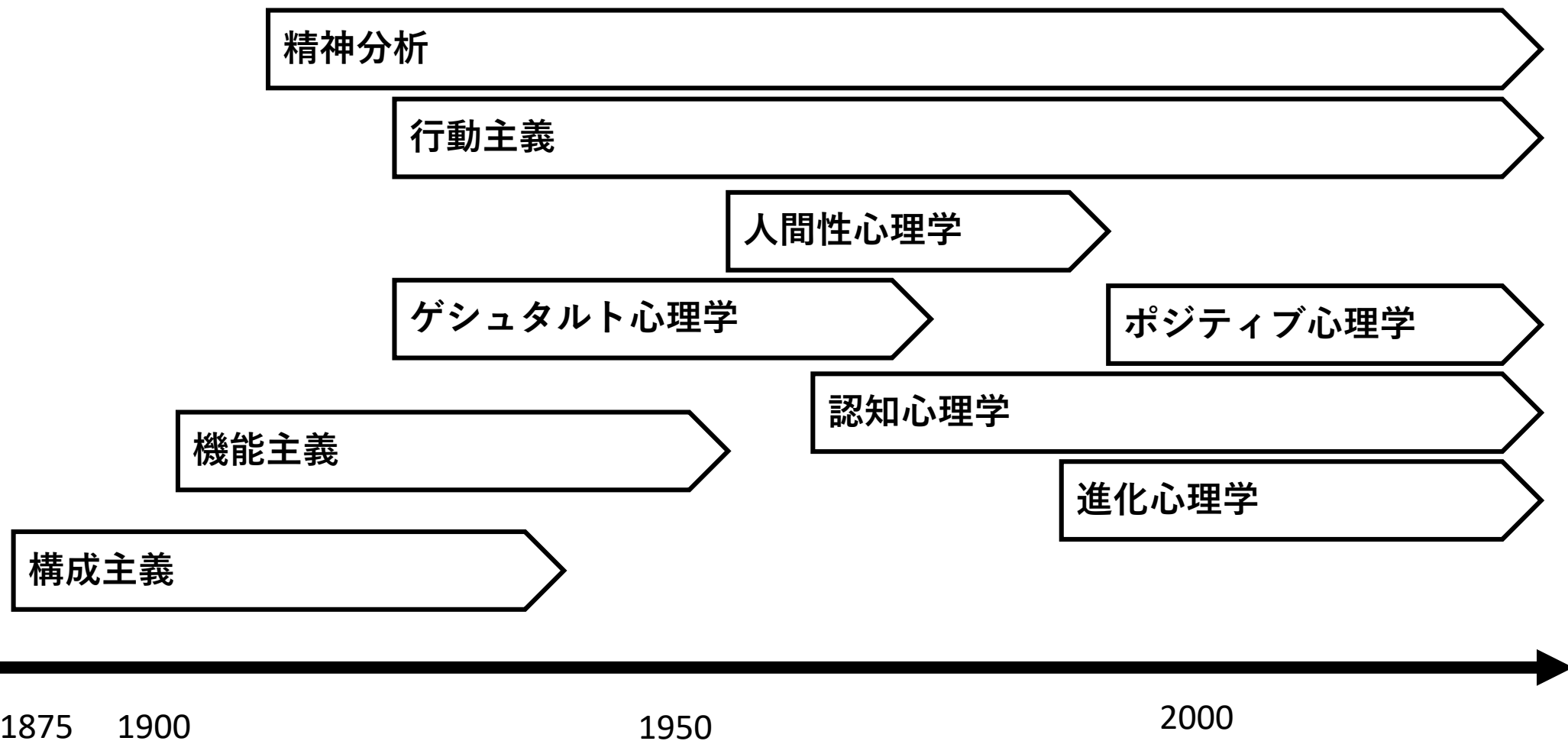
ゲシュタルト心理学



心理学の展開



これまでの心理学の展開



人間性心理学

- ❖ 人間は無意識の力によって動かされている
精神分析の考えを否定
- ❖ 刺激と反応で説明できる考え方は狭すぎると
行動主義の考え方を否定
- ❖ 「今を生きる」, 「自己実現」が重要
 - マズロー (Maslow) の欲求の階層
 - ロジャーズ (Rogers) の無条件的肯定

認知心理学

- ❖ 1940年代頃から発達してきたコンピューターの影響を受ける

- ❖ 生体の行動を「情報処理システム」とみなす



- ❖ 刺激と反応ではなく、精神過程 (mental process)

- ❖ 行動主義の外的な観察だけでは不十分

認知心理学

❖ 認知心理学のポイント（行動主義との対比）

- 知る（know）の過程を重視

- こころ（mind）がどのように構成，整理されているのか

- 人間は主体的に環境からの刺激を整理する

❖ 社会心理，言語，脳科学と幅広く貢献

進化心理学

❖人間の行動，認知，学習は「進化」の影響を受けている

■生存と繁殖の成功がここに影響

❖文化や環境の影響を受けるが「進化」の影響が強い

❖例／動物の訓練でエサを与える

❖例／クモやヘビの方が恐怖を学習しやすい

ポジティブ心理学

- ❖ 人間の悪いところを直すのではなく、良い側面に着目すべき
- ❖ セリグマン (M. Seligman,) が提唱
- ❖ 主観的 (subjective) well-being
- ❖ 利他主義 Altruism, 幸福 happiness とは？
- ❖ 「人間性心理学の繰り返しだ」と批判されるが、アプローチはより科学的

現代の心理学／ノーベル賞

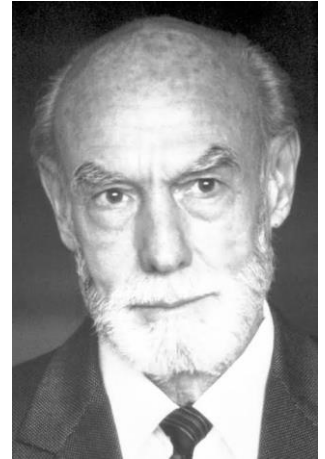
❖ 1981年ロジャー・スペリー (Roger Sperry) がノーベル生理学・医学賞を受賞

■ てんかん治療と分離脳研究

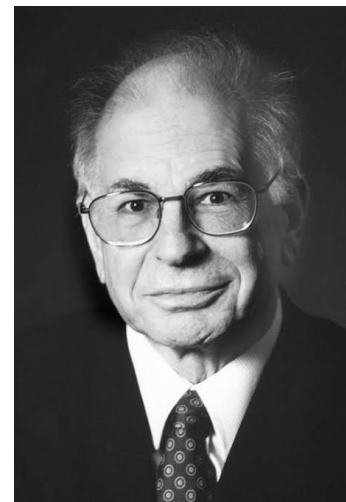
❖ 2002年ダニエル・カーネマン (Daniel Kahneman) がノーベル経済学賞を受賞

■ 心理学者, 行動経済学者

■ 「ファスト&スロー」



Nobel Prize より



Nobel Prize より

まとめ

- ❖心理学は哲学や生理学から発展
- ❖ヴントが意識を要素として捉えようとする
- ❖こころの捉え方は様々
 - 外から科学的に観察すべき→行動主義
 - 無意識の重要視すべき→精神分析
 - 要素ではなく全体を見るべき→ゲシュタルト心理学
- ❖それぞれの限界を踏まえ、現代の考え方へと発展（認知心理学，進化心理学など）

まとめ

❖心理学の流れmovement ≠心理学の種類

❖精神分析≠臨床心理学

❖ゲシュタルト心理学≠知覚と感覚

❖臨床心理学にも精神分析や行動主義のアプローチがいる

■様々なアプローチからこころの専門領域へ

❖心理学のmovementは発展したり衰退して
いっているものがある（構成主義など）

今日の目的と到達目標

目的

- ❖心理学の歴史を学び、どのような経緯で現在の心理学に至ったかを知る

到達目標

- ❖心理学の成立までの過程を説明できる
- ❖心理学の流れ（movement）を大まかに説明できる

今日のレスポンスシート

1. 今日学んだ心理学の展開（流れ）を一つ取り上げてその特徴と限界を書いてください。
（例：こころを捉えているか？どのような現実場面でその考えを応用できるか？）
2. 今日の授業から生まれた疑問，質問，感想を書いてください。

引用文献

無藤 隆・森 敏昭・遠藤 由美. (2018). 心理学
Psychology; Science of Heart and Mind (新
版) 有斐閣

Schultz, D. P., & Schultz, S. E. (2002). *A
history of modern psychology (8th ed).*
Thomson Wadsworth.

下山 晴彦. (2014). 誠信心理学辞典新版 誠信
書房

Watson, J. B. (1930). *Behaviorism (Rev. ed.).*
New York